

参加者
募集中!

日本遺産「水の文化」ぐるっと博とのタイアップイベント

大溝祭曳山特別見学

おいしい地元食材ランチ付スペシャルツアー!!

この秋、ガイドさんと一緒に「大溝の水辺景観」をぐるっと散策するツアーを開催します! ツアーの目玉は、通常は見られない大溝祭りの曳山特別見学と、地元産の野菜や湖魚、ジビエなどを使ったツアー限定のランチです♪

良いものに触れて、美味しいものを食べて、気持ちのよい景色の中を歩く。重要文化的景観、日本遺産に選定された風情ある水辺のまちを満喫するツアーに参加しませんか?



ランチの内容は日程によって異なるため、写真と同じ内容ではありません。和タイプのほかに洋タイプのランチなどもあります。

*開催日時

2017年10月28日(土)・10月29日(日)・11月18日(土)・11月19日(日)
各日とも10:30~14:30

*参加費

3,500円(昼食代、ガイド料、見学科、資料代、保険料込)

*定員

各日とも30名(最少催行人数5名)

*ツアー内容

10:30 JR近江高島駅 集合・出発
~「大溝の水辺景観」のまちあるき(大溝城跡や乙女ヶ池を中心に)、大溝祭曳山特別見学
12:00 昼食
~「大溝の水辺景観」のまちあるき(城下町や古式水道を中心に)、高島びれっじ周辺でお買い物
14:30 高島びれっじ周辺で解散

*その他

悪天候の場合は内容が変更となることがあります。(曳山見学は中止となります。)

*問合せ・申込先

大溝の水辺景観まちづくり協議会(10時~17時/水木定休)
TEL 0740-36-2011 FAX 0740-36-2012 MAIL oomizo.mizube@gmail.com

「大溝の水辺景観 まちづくり協議会」について

設立年月: 2015年4月

構成: 役員3名 会長 今西 仁
副会長 仁賀 定夫
〃 澤村 茂美

会員17名

オブザーバー 高島市役所高島支所
高島市教育委員会文化財課
高島市役所観光振興課

活動目的: 重要文化的景観「大溝の水辺景観」を活かした地域振興

編集後記

本号から紙面を一新してみました。写真を入れ、文字も大きめにして皆さんに読んでいただきやすく、を心がけました。「大溝の水辺景観まちづくり協議会」が結成されて3年め。これからも地域に根差した活動を地道に行っていきたいと思います。

発行: 大溝の水辺景観まちづくり協議会
高島市勝野1688 大溝まち並み案内処 総門
TEL 0740-36-2011 FAX 0740-36-2012
MAIL oomizo.mizube@gmail.com

重要文化的景観「大溝の水辺景観」から発信する活動広報紙

おおみぞこみぞつりん7号

2017年
9月発行



Vol. 7



{ 重要文化的景観選定から3年... }

「大溝の水辺景観」の未来について考える座談会が行われます!



このたび、重要文化的景観「大溝の水辺景観」に関して

選定地域にお住まいの皆さんで集まり、

希望や意見等を話し合っていただく「座談会」が

高島市により開かれることとなりました。



この経緯として、市では、市内に3つある重要文化的景観(※1)

について、今後どのようにして守り・次世代に伝えていくかを定めた

計画や整備方針に、地域の声を反映させたいという思いがあります。

現在、市と市が設置する「高島市重要文化的景観整備活用委員会(※2)」

が中心となって、「高島市重要文化的景観整備計画」の策定を目指し、

準備が進められています。

全国的にも貴重な「大溝の水辺景観」を

これからも地域の声を活かし、守り伝えていくため

「座談会」に、皆さんぜひご参加ください!

(事前申込は不要です。)



※1 大溝のほか、「海津・西浜・知内の水辺景観」「針江・霜降の水辺景観」が重要文化的景観に選定されており、一つの自治体に3つもの重要文化的景観があるのは全国で高島市のみです。

※2 「高島市重要文化的景観整備活用委員会」には、大溝の水辺景観まちづくり協議会会長も委員として参画しています。

と き: 第一回 2017年10月30日(月) 19:30~

第二回 2017年11月27日(月) 19:30~

ところ: 高島市役所高島支所2階大会議室

問合せ: 高島市教育委員会文化財課 TEL 0740-32-4467

活動レポート その①

講演会 『水・火・煙めく郷高島』

～高島の日本遺産が照らす未来～

とき：2017年8月20日(日)

ところ：観光物産プラザ

先日行なわれた「高島の日本遺産」をテーマにした講演会。主催は、日本遺産「水の文化」ツーリズム推進協議会高島地域協議会のほか、日本遺産に選定された地域でまちづくり活動をおこなう4つの団体の共催で開催しました。(大溝の水辺景観まちづくり協議会はそのうちの一つです。)当日は予想を超える多くの方が聞きに来てくださり、会場は大変にぎわいました。



① 現場から…それぞれの地域紹介

講演会の前に、主催の4つの団体(右記参照)による地域紹介がありました。それぞれ状況は違いますが、いずれの地域でも、地域の宝を見つけ、みがき、発信するということを基本に活動をしています。しめくくりには、これからの課題について、人口が減少していくことで、いろいろなところに手が行き届かなくなり、これまで守られてきた風景や文化が消えてしまうことへの危機感について触れられました。



安曇川流域文化遺産
活用推進協議会



海津・西浜・知内地域
文化的景観まちづくり協議会



針江・霜降の水辺景観
まちづくり協議会



大溝の水辺景観
まちづくり協議会

② 大沼芳幸さんのご講演

講師は、公益財団法人滋賀県文化財保護協会 普及専門員であり、日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」の普及発信にもご活躍されている大沼芳幸さん。大沼さんは学生の頃から発掘調査などで高島市によく来られており、その当時に見た勝野のあたりは川エビや魚がたくさんいて、まるで東南アジアのデルタのようだったそうです。

講演では、高島の5つの日本遺産(※)についてご自身の視点で紹介されました。(※海津・西浜・知内の水辺景観、針江・霜降の水辺景観、大溝の水辺景観、白鬚神社、シコブチ信仰)

「大溝の水辺景観」について、大沼さんは次のように話されていました。「おそらく人が何も手を入れなければ水の多すぎる土地で、土地を乾かすための都市計画の結果として水路がつくられたのだろうと思う。だが、実際は水路に板を立てて水をせき止めてものを洗ったり、防火用水や融雪溝として使ったりという暮らしの工夫が加わり、無味乾燥な水路ではなく、人間の温かみを感じる水路になっている。一番感動したのは、まちのいたるところにある分水のためのタワー、タチアガリ。最近大津で発掘調査したときに古式水道の跡が出てきたが、大溝ではこれが見事にまだ機能している。」

大溝のみならず、各地に自然と共生する文化が残っている高島。白洲正子氏の“かくれ里”という言葉을借りながら、「かくれ里」は単なる田舎ではなく、人を導く文化のあるところ。そして琵琶湖高島にその力が十分にある」と言われました。さらに、「何気ない暮らし、何気ないものというのが実はものすごい価値をもっている。わたしたちは宝の中に暮らしているということを見つめ直してもいいのではないかと思います。」というメッセージを投げかけられました。



活動レポート その②

“大溝・白鬚 水辺ガイドの会” 元気に活動しています!

昨年のガイド養成講座をきっかけに結成された「大溝・白鬚 水辺ガイドの会」。大溝の水辺景観まちづくり協議会を事務局として、結成後も定期的に集まって勉強会をしたり、依頼があったまちあるきガイドを行なっています。



大溝祭や夏まつりで活動PRのための出店にもチャレンジ!

H29年3月～9月の活動内容

- ・デビューツアー2回(案内人数のべ13名)
- ・まちあるきガイド12回(案内人数198名)
- ・勉強会8回
- ・大溝祭、たかしま夏まつりでの活動PR



皆さん、デビューツアーへのご参加ありがとうございました!



ガイドさんの手記より!〜

北川美千代さん

まちあるきガイドのお仲間に入れて頂いて、一年が過ぎました。当初は“重要文化的景観”という肩書に戸惑いが有りましたが、勉強会や現地研修など、思いを共有出来る皆と一喜一憂しながら現在は何とか軌道に乗りつつあります。また今年は会のアピールも兼ねて、大溝祭、たかしま夏まつりにも参加し新たな挑戦もしました。貴重な体験の結果、あらゆる能力を駆使すれば、それなりの成果を見出させるということを身をもって感じる事が出来ました。総門を活動拠点として、いかにこの会を進化させていくかが、これからの課題となるでしょう。微力ながら関わっていけたらと考えています。

八田明子さん

観光ボランティアになる最初のきっかけは、高島についての勉強会に参加したことでした。大溝祭や乙女ヶ池、高島駅裏の山の湧き水、そして城下町として栄えた江戸時代、奥深い多くの歴史を学び、最終的にはボランティア活動をする事になりました。「説明を聞いて良く分かった」と言ってもらえた時はうれしかったです。毎回のツアーに参加し自信を持って案内出来る様に、先輩ガイドの説明や活動を通して少しずつ学んで行きたいと思っています。

才内美智子さん

わたしは「この町の歴史を先代から継承されてきた人々の想いも伝えていきたい」です。今年の大溝祭を見て、もっと詳しく知りたくて、地元の人話を聞いたり、「大溝祭保存会」の本を借りて、ますます「この祭りが江戸時代から今日まで伝承されてきました」と簡単に言えないことがわかりました。その準備と行事の次第、曳山の保存維持などは相当な諸費の負担や奉仕のための労務の提供が必要で大変なことです。尊敬と敬意の念をもってガイドをやりたい。遠くからこの祭りをしているわたしには、当事者の人々がちょっぴりうらやましいと思いました。

